

歴史を辿る。

設楽原を舞台として繰り広げられた長篠・徳川連合軍と武田軍、新旧の戦いが歴史を大きく動かすことになりました。



長篠合戦図屏風(大阪城天守閣所蔵)

日本各地に有力な戦国大名が群雄割拠するこの時代、奥三河には、山家三方衆と呼ばれる土豪がいました。東に今川・武田、西に織田・松平などの有力大名に囲まれたこの地では、自家の存続のため、めまぐるしく従属関係を変えなければならず、時には親子が敵味方に分かれて戦うこともあり。天正3年(1575)、奥平貞昌が徳川氏の家臣として長篠城に入ったことから、歴史は動きだします。その城をめぐる繰り広げられた織田・徳川連合軍の鉄砲と馬防柵、武田の騎馬隊の戦いは、斬新な戦術を追求した信長と、伝統的な戦術に秀でた勝頼との激突であり、新旧の戦術がこの地で対決しました。この戦いの勝利の後、奥平家は新城の地に移り城を築き、新城城主として新城の町の礎を築きました。

戦

日本
名100
名城

19 長篠城跡

ながしのじょうあと

新城ICより約2.6km

永正5年(1508)に菅沼元成が築いた長篠城は、豊川と宇連川の合流点に位置し、北方に人口の堀と土塁を築いた堅固な城でした。戦国の世の常として、今川、武田、徳川にと帰属を変え、天正3年には21歳の奥平貞昌が城主となりました。この城を長篠・設楽原の戦いで武田信玄の子・勝頼が父の上洛の夢を果たそうと15,000人の大軍により包囲しましたが、貞昌は500人の兵で籠城に耐え抜きました。



19 18

18 設楽原決戦場

したらがはらせんじょう

新城ICより約2km

天正3年(1575)、長篠・設楽原の戦いの舞台となった場所。武田軍と織田・徳川連合軍の総勢5万人を超える兵士達が、当時東西の勢力の要となっていた長篠城をめぐる様々な戦術を駆使して戦いました。無敵を誇っていた武田軍の騎馬隊に対する織田・徳川連合軍は、「火縄銃」という新たな武器を「鉄砲隊」と「馬防柵」という戦術で組織的に利用し、圧倒的な強さで短期間の内に決戦を征しました。その馬防柵が決戦場跡に再現されています。



30 設楽原歴史資料館

したらがはらせんじょうかん

新城ICより約1.9km

長篠・設楽原の戦いの様子は決戦場を臨む丘の上にある資料館で詳しく知ることができます。多数の火縄銃が展示され、鉄砲の伝来からその後の火縄銃の歴史を展示紹介しています。

TEL.0536-22-0673



20 新城城跡

しんじょうあと

新城ICより約4.5km

長篠・設楽原の戦いの結果、織田・徳川連合軍の大勝利に帰したので、奥平貞昌は、信長の信の一字をもらって信昌と改め、家康の長女・龜姫をめぐり、天正4年(1576)に新城城を築城しました。

21 野田城跡

のだじょうあと

新城ICより約7.8km

元龜4年の戦いの際、信玄が鉄砲で撃たれたという話が伝わっています。城内にいた笛の名人、村松芳休の奏でる笛の音に、夜、信玄が聞き惚れて堀端に出たところを鉄砲の名人、鳥井半四郎に撃たれたということ。これが原因かどうかはわかりませんが、信玄はこのころから病気になる、帰路の途中、信州駒場で死んだとされています。



23 甘泉寺のコウヤマキ

かんせんじのこうやまき

新城ICより約23.9km

甘泉寺境内にあるコウヤマキは、樹齢600年以上の古木で樹高28m、幹の周りは6.5mにもなります。国の天然記念物に指定されているほか、「新日本名木百選」にも選ばれています。



24 古宮城跡

ふるみやじょうあと

新城ICより約22.2km

元龜3年(1572年)に奥平氏の監視のために武田信玄の重臣馬場美濃守信春が甲州流の縄張り、武田軍の最前線基地として築城。2年後奥平・徳川連合軍の前に自焼陥落しましたが、名城の面影を今に残しています。

25 川尻城跡

かわしりじょうあと

新城ICより約23.7km

天授年間(1375~81)に上野(群馬県)吉井から移ってきたとされる作手奥平氏の初代貞俊が、最初に築城した城。今は城の冠木門が復元され公園となっています。

26 信玄塚

しんげんづか

新城ICより約1.3km

長篠・設楽原の激戦により村から避難していた村民たちが帰村後、散乱していた名もなき武者のなきがらを埋葬し、塚を築き吊ったところ。当時すでに信玄は没しており戦いには参加していませんでしたが、信玄の威名が武田氏の代名詞だったことがうかがえます。

27 亀山城跡

かめやまじょうあと

新城ICより約21.4km

応永31年(1424年)に奥平貞俊により築城されました。周辺には、武田方によって築城された古宮城跡や塞の神城跡があります。毎年5月中旬には「古城まつり」が開催されます。

31 長篠城址史跡保存館

ながしのじょうししせきほぞんかん

新城ICより約2.6km

日本百名城に数えられる長篠城の城跡にあり、長篠・設楽原の戦いに関する遺品や文献などを保存し、常時約200点の展示があります。

TEL.0536-32-0162



32 作手歴史民俗資料館

つくでれきし民俗しりょうかん

新城ICより約23km

お城をモチーフとした資料館。長篠・設楽原の戦いで長篠城主となった奥平氏の居城であった亀山城跡の模型やその地に暮らした人々の生活用品が展示されています。

TEL.0536-37-2269



22 鳥居強右衛門

とりいすねえもん

新城ICより約23.9km

鈴木金七郎と共に長篠・設楽原の戦いで武田の包圍網を危険を顧みず突破し、織田・徳川連合軍の援軍を岡崎の徳川家康に求める使者として奥平貞昌から命じられた家臣。その活躍は三河武士の模範として今でも語り継がれています。

28 満光寺庭園

まんこうじていえん

新城ICより約11.2km

「徳川家康の危機を救った鶏」で有名な曹洞宗の寺院。庭園は書院庭園と庫裡庭園2庭から構築されおり、愛知県の名勝地指定を受けています。

29 大通寺の盃井戸

だいつうじのさかずきいど

新城ICより約3.4km

長篠城跡の北端に接した大通寺には、盃井戸と呼ばれる泉があり、長篠・設楽原の戦いの時、武田方の馬場信房・山県昌景・土屋昌次がこの泉を汲み、別れの水盃を交わしたといわれています。